

令和6年度「公立学校教員勤務実態調査」等の結果

令和7年4月
教育委員会

1 調査時期

令和6年10月～11月（1週間）

2 調査対象

府内公立学校の校長及び教員の約1割(1,100人)を無作為抽出(京都市立学校を除く)

3 1週間の出退勤時刻の記録

〔選択〕第1期：10月21日(月)～同月27日(日)

第2期：11月11日(月)～同月17日(日)

4 調査結果

<概要>

令和5年度との比較

<在校等時間>
昨年度と比べて在校等時間は全ての校種で減少しているが、教員の勤務実態は依然として厳しい状況。

○ 教員の在校等時間は、令和5年度より減少

全 体(週当たり学内勤務時間)	⑤57時間16分→⑥55時間55分(▲1時間21分)
小学校	⑤57時間00分→⑥54時間58分(▲2時間2分)
中学校	⑤60時間44分→⑥60時間10分(▲34分)
高等学校	⑤57時間44分→⑥55時間59分(▲1時間45分)
特別支援学校	⑤50時間24分→⑥49時間26分(▲58分)

○ 時間外在校等時間が月80時間を超える教員の割合は、令和5年度より減少

小学校	⑤33.7%→⑥18.0%(▲15.7%)
中学校	⑤57.7%→⑥48.8%(▲8.9%)
高等学校	⑤37.1%→⑥34.9%(▲2.2%)
特別支援学校	⑤9.7%→⑥5.2%(▲4.5%)

<働きやすさ・働きがい>
昨年度と比べて、気分障害や不安障害のスクリーニング調査(K6)結果は向上している一方で、仕事に関連する充実した心理状態(UWES)の分析結果は低下している。子どもに向き合う業務について高い働きがいを感じる教員が多い中、こうした業務に意欲的に取り組める環境整備が重要であると考えられる。

○ 働きやすさは令和5年度より向上し、働きがいは令和5年度より減少

小学校	【K6】 ⑤5.7→⑥5.5(▲0.2)	【UWES】 ⑤10.0→⑥9.5(▲0.5)
中学校	【K6】 ⑤5.8→⑥5.5(▲0.3)	【UWES】 ⑤10.2→⑥9.7(▲0.5)
高等学校	【K6】 ⑤5.4→⑥4.8(▲0.6)	【UWES】 ⑤10.8→⑥9.7(▲1.1)
特別支援学校	【K6】 ⑤5.9→⑥5.0(▲0.9)	【UWES】 ⑤10.9→⑥10.2(▲0.7)

※K6・・・得点範囲は0～24点で、得点が低いほど良好な状態。
5点以上でうつ傾向・不安あり、
10点以上でうつ病等の疑いがあるとされる。

※UWES・・・得点範囲は0～18点で、得点が高いほど良好な状態。

【勤務時間等に関する集計結果の概要（令和5年度比較）】

教員の在校等時間

時間:分

平日 (1日当たり)	全体			小学校			中学校			高等学校			特別支援学校		
	R6	R5	差	R6	R5	差	R6	R5	差	R6	R5	差	R6	R5	差
勤務時間	10:35	10:38	▲0:03	10:46	10:59	▲0:13	10:59	10:55	+0:04	10:14	10:13	+0:01	9:44	9:52	▲0:08
うち教諭等	10:32	10:37	▲0:05	10:43	10:57	▲0:14	10:59	10:54	+0:05	10:12	10:11	+0:01	9:44	9:50	▲0:06

「教諭等」は、管理職を除く教諭(講師含む)を指す。

時間:分

土日 (1日当たり)	全体			小学校			中学校			高等学校			特別支援学校		
	R6	R5	差	R6	R5	差	R6	R5	差	R6	R5	差	R6	R5	差
勤務時間	1:28	2:45	▲1:17	0:34	1:43	▲1:09	2:37	3:49	▲1:12	2:24	4:05	▲1:41	0:22	1:18	▲0:56
うち教諭等	1:28	2:50	▲1:22	0:28	1:44	▲1:16	2:47	3:55	▲1:08	2:23	4:09	▲1:46	0:22	1:19	▲0:57

時間:分

1週間	全体			小学校			中学校			高等学校			特別支援学校		
	R6	R5	差	R6	R5	差	R6	R5	差	R6	R5	差	R6	R5	差
勤務時間	55:55	57:16	▲1:21	54:58	57:00	▲2:02	60:10	60:44	▲0:34	55:59	57:44	▲1:45	49:26	50:24	▲0:58
うち教諭等	55:40	57:16	▲1:36	54:30	56:54	▲2:24	60:30	60:52	▲0:22	55:48	57:42	▲1:54	49:21	50:11	▲0:50

心理的ストレス 反応(K6分析)

(0～24点)

K6	全体			小学校			中学校			高等学校			特別支援学校		
	R6	R5	差	R6	R5	差	R6	R5	差	R6	R5	差	R6	R5	差
得点	5.3	5.7	▲0.4	5.5	5.7	▲0.2	5.5	5.8	▲0.3	4.8	5.4	▲0.6	5.0	5.9	▲0.9

気分障害や不安障害のスクリーニング調査として、厚生労働省「国民生活基礎調査」等、様々な調査で用いられる尺度。抑うつ等6項目を5件法（0～4点）で評価（K6）するため、得点範囲は0～24点で、低いほど良好な状態。5点以上でうつ傾向・不安あり、10点以上でうつ病・不安障害の疑いがあるとされる。

仕事に関連する充実した心理状態(UWES分析)

(0～18点)

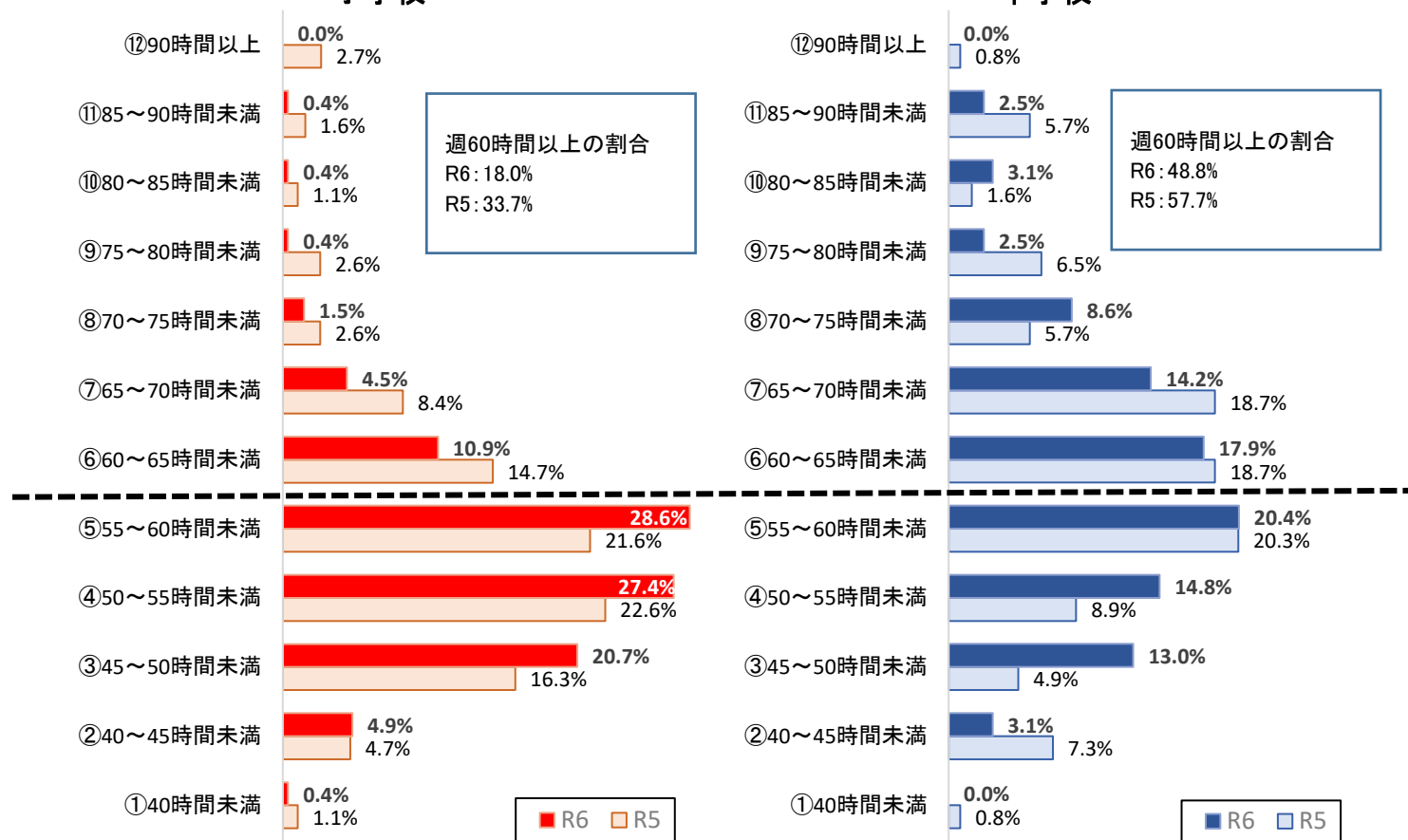
UWES	全体			小学校			中学校			高等学校			特別支援学校		
	R6	R5	差	R6	R5	差	R6	R5	差	R6	R5	差	R6	R5	差
得点	9.6	10.3	▲0.7	9.5	10.0	▲0.5	9.7	10.2	▲0.5	9.7	10.8	▲1.1	10.2	10.9	▲0.7

ワークエンゲージメントとは、「仕事に関連するポジティブで充実した心理状態であり、活力、熱意、没頭によって特徴づけられる。エンゲージメントは、特定の対象、出来事、個人、行動などに向けられた一時的状態ではなく、仕事に向けられた持続的かつ全般的な感情と認知」とされている。活力など3項目を7件法（0～6点）で評価するため、得点範囲は18点で、得点が高いほど良好な状態である。

1週間当たりの在校等時間の分布【教諭】 在校等時間が週60時間以上＝時間外在校等時間が月80時間以上

小学校

中学校



高等学校

特別支援学校

